

# Richart ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第84号

## ななえ古写真物語

VOL. 84

### 旧大中山牧場

山火事から始まった組合  
昭和40年頃か？  
横津岳中腹



国道5号を函館方面へ向かう途中、大中山神社の前に一体の胸像が鎮座しているのをご存知でしょうか？ 一体誰の像なのか分からない方も多いかと思いますが、胸像の正面に彫られている碑文を読むと、大中山地区の畜産の振興に尽力した人物であることがわかります。

「榑山勇五郎は、夙に牧野畜産の振興を念願し、昭和五年七飯村有林四十一町四反三畝二十歩及び北海道有林二百三十二町八畝歩の貸付を受け大中山畜産改良会を組織、爾来組合の発展に伴い牧野組合に改組後も、引続き十五年の永きに亘り組合長の任にあり、牧野改良事業に献身的努力を傾け、今日の基礎を築ける功績は偉大なり。茲に翁の胸像を建立し、その勲を顕彰せんとす。」

昭和29年9月に大中山牧野畜産農業協同組合によって建立されたこの胸像は、大中山の畜産振興に尽力した榑山勇五郎氏であり、今も歴史を伝えているものです。

大中山地区における畜産組合の沿革を調べてみると、その始まりは、大正10年に村有地の炭窯から出火した山火事が発端となっていました。村民総動員で消火作業にあたったものの、50町歩以上もの焼失面積に及んだそうです。

翌年になってから、焼失した山野を借り受けて畜産改良会なるものを結成しようと、先に登場した榑山勇五郎をはじめ小西熊蔵、岩崎恒右衛門、水島祐作らが中心となり、結成したのが「大中山畜産改良会」で、賛同会員は120名に及んだといえます。

昭和5年以降、新たに道有林を借り受け、牧場内に監視舎や牛馬の水飲み場を設置し、境界に木柵を巡らせるなど、組合員のボランティアによって行われたこともあり、年を追うごとに放牧牛馬の事故が減少しました。

昭和23年には、「大中山牧野畜産農業協同組合」として登記され、村有林41余町と道有林232余町が組合の所有となり、道内でも有数の人工牧野として発展しました。

ところが自動車の普及などにより、牛馬の飼育数が年々減少していく最中であった昭和46年、組合所有の牧野は売却され、その後ゴルフ場やスキー場などのレジャー施設へと変貌してしまいました。

上は大中山地区にあったかつての牧場の姿を残す貴重な写真となります。山火事から発展した地域の畜産振興の歴史は、碑文に刻まれ人知れず未来へ紡がれています。

## 18日

館外展の開催に伴い大沼国際セミナーハウスにて、ミュージアムトーク「大沼の歴史・写真のキオク」を行いました。ゆったりとコーヒーをのみながら、展示している写真パネルや絵葉書を紹介し、関連する歴史を語っていくと、会場からも思い出話があがるなど、とても和やかな空気の中で、時間が過ぎていくようでした。参加者の皆様、忙しい中ありがとうございます。



## 26日

ジュニア探検クラブで、「町の外を見学しよう」と題して市立函館博物館と北方民族資料館の見学をしてきました。歴史のある函館博物館では、100年以上前の魚類剥製や古写真のパノラマを見学、民族資料館では、アイヌ関係の資料を中心に解説して頂きました。最後に自分が気に入った資料のスケッチやどういう風に使うかなどを調べましたが、思っていた以上に、子どもたちの興味が分散していることに驚きました。



## 野草園の整備をして頂きました！

11月26日に歴史館友の会の皆さんが、野草園の冬囲いをして下さいました。

あまり、良い天気とはいえなかったのですが、元気いっぱいの約20名が一斉にムシロかけをしたり、縄で枝を縛ったりと、みるみる野草園は冬の装いへと変わっていききました。いつもながら、その手際の良さには感謝しております。

来春、雪の冷たさを耐えた草花たちが、美しい衣をまとってくれることでしょう。本当にありがとうございました。



## 1月の予定

1	木	年末年始休館日
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	成人の日
13	火	
14	水	夜の博物館
15	木	
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	ジュニア探検クラブ

12月31日～1月5日は休館となります。

### えぞさんしょうお

飼育してから、3年目に突入したサンショウウオが最近、食が細くなったのかあまりエサを食べません。高齢なのでしょうか？何事もなければ良いのですが...



### 編集後記 ~tawagoto~

先日、山の中腹にある石碑の確認に行ったのですが、あたりを見ると、キツネやシカ、ウサギの足跡らしきものが点々と続いており、姿が見えなくても、いろんな生き物が活動していることがわかり、冬のフィールドも悪くないと感じました。

一転、雨除けの屋根が崩れ、石碑にもたれ掛っている姿をみて、自然は生き物を育みながらも、厳しさをあわせ持つものだと、なぜか哲学的に痛感させられた一日でした。（やまだひさし）

~ピチャリ~  
Pichari 第84号

平成26年12月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp